



こう じ えん 校 地 縁

開進第一中学校だより
令和2年度 第7号
令和3年3月18日発行

「校地縁（こうじえん）」～ これからも「学校と地域・家庭の縁をつなぐ」ために ～

進路指導主幹 石田 浩一

開進第一中学校に来たのは10年前の4月。その直前に起こった東日本大震災の影響で、まだ日本全体が混乱していたころの赴任でした。節電という言葉が良く聞かれ、学校でもエアコンの設定温度や教室移動時の消灯などがそれまで以上に注意されたころ。それから10年の間に開進一中では70周年の記念式典があったり、耐震工事や外装工事、格技室の天井工事など、学校の設備が新しくなったりしました。また、小学校6年生の部活動体験や校内見学等が行われるようになり、土曜日の学校公開なども毎月行われるなど、地域との連携といった面でも大きな変化のあった10年間でした。

10年目の今年はコロナウイルスという全世界が初めて経験する大きな出来事がありました。その影響を受けて4月から前代未聞の臨時休校があり、行事を行うことはおろか部活動も軒並み休止、3年生の最後の大会も中止になり、普段の学校生活ですらマスクを常に使用しての生活という、大変な年になってしまいました。

そんな中ではありますが、各学年ではスポーツ大会「かいちくん杯」を行い、文化発表会や合唱コンクールに代わる全く新しい取り組み「開一フェスティバル」や「LMF（ラスト・ミュージック・フェス）」といった行事を行うことができたことや、「卒業式典」として3年生全員に校長先生から記念品を渡すことができ、多くの保護者の方々に参加していただくことができました。本当にありがとうございます。

思えばこれまでも学校で何かをするために地域や家庭と学校が連携して進め、生徒の活動をサポートしていただいたことで、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で一人ひとりの力を伸ばすことができたのではないかと思います。そしてこの「学校だより」はこれまでも学校の様子、生徒の様子を地域・家庭へ伝えるために毎月発行され、ホームページでも授業や行事の様子が更新されています。しかし、そういえばこの10年間ずっとタイトルは「学校だより」のままでした。そこで、これからも「学校」と「地域・家庭」が協力するために、お互いの「縁」をつなぎ、生徒の成長を見守りながらより良い学校を作っていってほしいという気持ちを込めて、「学校だより」のタイトルを「校地縁（こうじえん）」と考えました。これからも開進第一中学校をよろしく願いいたします。

1年間の教育活動を振り返って

教務主幹 宮野 保幸

教務主任の仕事の一つに、1年間の教育活動のスケジュールを立てることがあります。今年度はコロナ禍により例年通りには行えないことばかりで、きちんとスケジュールを立てることができず1年間が終わってしまいました。しかし、そんな状態でも開進一中では大きな混乱が起きることなく、新しい日常をおくることができました。そこには生徒たちの、できないことを嘆くのではなく、できることを素直に楽しむ姿勢が大きく影響しています。コロナ禍の有無に関わらず、子どもたちは、毎年、新しい経験をすることで成長してきました。今年度は、コロナ禍という新しい経験をする中で成長したのだと思います。

4月以降もまだまだ行動に制限がかかることが予想されますが、生徒によりよい”新しい経験”をさせられるような教育活動を行っていきたくと思っています。

3月9日の午後新たな取り組みでの音楽祭が行われました。残念ながら歌は歌えませんでした。リズム奏を3年生にリードしてもらいながら無事合奏することができました。そこでそこまでの音楽の授業を振り返ってみようと思います。

6月、授業が始まりましたが、歌、器楽、グループ活動も制限されるというところで鑑賞を中心に行いました。慣れない教室での授業、音量に気を遣いました。

7月、歌唱の授業が始まりました。クラスを分けての4階の端から端へ移動して分散して練習しました。大変ありがたかったのは、分散しても自分たちでパートリーダーを中心に歌を歌ったり静かに移動をしたりしてくれたことです。協力がなければ決してできないことでした。歌唱の面でも2月から声を出していない状況だったので心配でしたが、しっかり取り組み元気な声を聴かせてくれました。この頃なんとか音楽祭ができないかということで、「全校で行うもの・学年で行うもの」の2つを企画しました。

合楽曲の中でダンスがあったのですが、振り付けが接触するものがあったので新たな振り付けを2年生、小池優奈さん・清水桜和さんをお願いしました。とてもかっこいい、私では想像の及ばないものを考えてきてくれました。

9月、振り付けの振りも小池さんたちにとってもらい、各クラスの振り付け担当へレクチャーが始まりました。小池さん・清水さんの指導をすぐに各クラスの振り付け担当は理解し、クラスでわかりやすく教えていました。パートリーダー達は、分散でのもう一つのグループをリードしパート練習を効果的に行い、リズムリーダーはリズムのカウントをとって練習を進めました。

指揮者、伴奏者も例年通り集まり、オーディションではそれぞれ熱意のこもった演奏が聴かれましたが、1年生では、伴奏 高橋南美さん、指揮 久保柚喜さん、2年生では、伴奏 角野仁玲さん 指揮 吉浦朝子さん、3年生では、伴奏 小城天音さん、指揮 田中彩桜羽さん 滝本凌真くんが選ばれました。

音楽祭のテーマは、3年4組の考えた「ラスト・ミュージック・フェス」と決まり、12月までリズム、学年合唱、全校合唱と進めてきたのですが、残念ながら歌唱や集まることはできませんでした。

そこで授業中、教科担当と3年生の鈴木秀一朗くんが撮ってくれた動画や写真を使って動画を作成しました。ハイクオリティなオープニングとエンディングは2年生の池田 空くんが作成しました。

当日は、3年生の伊藤晴名さん、長谷川和紀くん、佐藤駿也くんがリズム合奏のリードをとってくれました。変更は次々変更がありながら短時間で練習し、本番では見事に合奏を行うことができました。歌うことはできなかったけれど、「音楽を作ること」はできたと思います。この1年、制約が多い中でしっかり取り組み、落ち着いた授業が送れ、本当に感謝します。

1年間を振り返って

生活指導主幹 門脇 祐太

令和2年度は、これまでに誰も経験したことのない学校生活を送ることとなりました。行事も思うようにできず、人と人との関わりも減らさなければならぬ日々。そんな中で「何ができるのか」「大切なこと、必要なことは何なのか」を常に考えながら色々な活動に取り組みました。

6月から再開された学校生活を生徒のみなさん、保護者や地域の皆様と一緒に送ってきたことを振り返ってみて、気付いたことがあります。それは「常に、とても前向きで明るい雰囲気があった」ということです。ともすれば「なんでこうなってしまったんだ」と嘆き、後ろ向きになってしまってもおかしくなかった日々の中で、そこにはいつも明るさがありました。授業や日常生活、部活動の中には、生徒たちから出てくる前向きな雰囲気やひたむきさがありました。放課後の消毒活動や学校公開、保護者会などの際には、保護者や地域の皆様から「何かできることを」と御協力いただける明るさに助けていただきました。そして、それに引張られるように我々教職員も笑顔の多い1年間を送ることができたと思っております。

まだまだ先行きの見えにくい世の中ではありますが、きっとこの「前向きで明るい雰囲気」があれば何があっても乗り越えていけるのではないかと思います。今年度1年間の御協力と御支援ありがとうございました。そして今後ともよろしく願いいたします。

令和2年度練馬区生徒表彰 3名の生徒が受賞しました

この練馬区生徒表彰は、善行や人命救助、福祉活動や環境美化活動で他の模範となる時、また、部活動などの対外活動・コンクール等において著しい成果をあげた生徒に対し、練馬区教育委員会が表彰を行うものです。

なお、対外活動の基準としては、都大会3位以内、関東大会4位以内、全国大会8位以内など大変厳しい基準が設けられています。今年度、本校では3名の生徒が受賞しました。

3年 鈴木 菜央さん 全日本中学校通信陸上競技東京都大会 共通女子200m 第3位

2年 横田 結花さん USA Regionals 2020 東京大会 第3位 全国大会出場権獲得

1年 山本 康生くん ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック OnStage 日本リーグ 第3位

令和2年度教育活動に関するアンケート結果 5:とても思う 4:思う 3:あまり思わない 2:思わない 1:わからない

この度はアンケートに御協力いただきありがとうございました。結果を次年度の教育活動に生かしてまいります。

No.	項目	5	4	3	2	1
問01	お子様は、朝読書を通して読書の楽しさを知る機会となっている。	25%	45%	18%	4%	8%
問02	落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。	19%	55%	8%	2%	16%
問03	数学の習熟度別少人数授業は、学力の定着を図る上で効果的である。	29%	53%	7%	1%	10%
問04	各教科の評価・評定は、適切に行われている。	14%	60%	13%	3%	10%
問05	お子様は、自主的にきちんとした言葉遣いで挨拶している。	19%	63%	12%	1%	6%
問06	お子様は、時間や身なり服装などの基本的な生活習慣が身についている。	24%	54%	17%	4%	2%
問07	お子様は、部活動に意欲的に取り組んでいる。(該当者のみ)	45%	31%	4%	2%	17%
問08	本校の部活動の活動時間は適切である。	38%	45%	8%	2%	7%
問09	お子様は、相手の立場に立って考えたり行動できたりする。	22%	59%	12%	1%	5%
問10	職業調べや上級学校訪問など進路学習や生き方指導を計画的に行っている。	15%	50%	17%	3%	14%
問11	本校の生徒会活動は、活発に運営されている。	14%	52%	7%	1%	25%
問12	生徒・保護者・教員の三者面談は、教育相談機能を果たしている。	23%	62%	10%	1%	4%
問13	校内の清掃が行き届き、環境美化が整っている。	23%	65%	5%	1%	6%
問14	挨拶運動やクリーン運動などの行事、校外の諸活動においてPTAスタジイの会、地域関係者、関係機関と協力した取組を進めている。	28%	58%	3%	1%	10%
問15	給食は生徒にとって栄養バランスがよく、安全とおいしさを兼ね備えている。	27%	51%	11%	4%	7%
問16	学校の様子は、お便りや学校ホームページなどでよく知らせている。	29%	58%	9%	1%	4%

待ち望む歓びの春を迎えようとしている今日、3年生と保護者の皆様、3年式典を挙げる事ができたことに御礼を申し上げます。3年生の先生方から手作りの思い出写真を一人一人に渡す機会ができて感謝します。助けられる人から人を助ける人に成長をして、自らの可能性も広げてきた3年間であったと感じる事ができました。進路決定を迎えようとする今、皆さんと確認したい皆さんから学んだ事である「可能性の大きさ」の話をします。

私の教員生活のスタートの時は、マラソンを趣味として取り組んでいました。仲間の教員が沿道に応援してくれ出場する青梅マラソンの前日に、お世話になった先輩の数学の先生がマラソンを始める決心をしてくれた昭和60年東村山三中での出来事を話します。

一緒に軽く走り始めた初日でしたが、校庭の外周300メートルを1分22秒5で通過を確認した時に「無理しないでやめておきます」と言ってランニングの良さを味合うこともなく少ないと感じる距離で終えたのが初日の出来事でした。その後、先輩の先生は練馬中への転勤があり別々の学校となりました。マラソンの練習は、「一番カッコいい自分の姿」に出逢うために継続しているだけの趣味のひとつですと話していましたが、光が丘公園で一緒に走るたびに成長している確かな力を感じました。1年後の青梅マラソンと一緒に出場した先輩の先生は、30kmを2時間17分30秒で完走しました。お互いに数学の教師であるからすぐに偉大さに気づきました。300mの100倍が30km、30000mなのです。365日前のやっと走れた300mのペースを維持したままで、100倍の距離を走れる飛躍をしたことに驚かされるとともに、可能性の大きさを実感させられて、人の見方を学び生徒の可能性を小さくしてはならないと教えられた出来事でした。

その後で、私も練馬区立谷原中に転勤して、都立久留米で全国大会に出場したサッカー選手やtomoro-という曲の大ヒットやミス東京となる活躍等、中高校生時代の成長の大きさは100倍以上である事を今年の皆さんの活躍まで数多く見せてもらいました。

成長するために大切な3つの事も3年生の君たちからも学びました。

1つ目は、出逢いです。数学で出会った私を見てマラソンも一緒にと声をかけてくれたことです。先輩でありながら、一方的に教えてばかりでなく謙虚に私の趣味を学校の中で価値があると認めてくれた事です。人との出逢いが増えると物事が必ず見えてきます。

謙虚な姿勢で、今後出逢う新たな物事に対して、一步踏み出す姿を期待しています。

2つ目は、継続です。取り組んでみると苦しいのは当たり前です。皆さんは大丈夫です。世界から認められている我が国で生活してきた人々の長所には、勤勉さがあります。皆さんの傍には、この日まで成長させるために一生懸命にサポートしてくれた両親がいます。家庭と共に、勤勉で粘り強く頑張っていける進路選択を皆さんは実現してきました。

3つ目は、仲間です。みなさんは、仲間と一緒に成長しようと気持ちがありました。

学んだ事を周囲に聞いてもらう対話をしながら理解は深めました。自分自身の順位は、しっかりと意識すべきものですが、一番のライバルは自分自身であることを忘れないでください。自分と戦うための協力者である仲間感謝と恩返しの優しさを発揮してください。皆さんは、本日も卒業式も参列ができない在校生と共に「謙虚で・勤勉で・優しい」姿を本校の伝統に残してくれました。オリンピック等の感動を世界に取り返す主役です。可能性を大きく広げて輝かせていくために、中学校最後の一月を保護者の方々と共に決定した進路先を好きになるように取り組む春にしていく事を期待して校長挨拶とします。

地域・家庭とのつながりの大切さを感じた令和2年度でした。そこで、学校だよりのタイトルを「校地縁」と改名して皆様との出会いを大切にするとともに開進一中が地域や保護者の皆様と共に発展していく学校であることを目指す所存です。教育活動に関するアンケートでは、各項目で概ね高評価をいただきありがたく感じております。この評価に甘んじることなく新たな取組を行ってまいります。その中で、問04 評価・評定と問07 部活動へ意欲と問10 進路学習については課題として受けとめて、生徒の意欲向上がより高まるように意識して取り組んで参ります。今後とも御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

副校長 白田統志夫